

1 背景 - 失われたかつての響き -

現代の住宅は、効率性と機能性を最優先に設計されてきた。本来、家とは都市の一部であり、都市もまた多くの人々の延長線上にあるはずだ。古い町屋や長屋のように、内と外が滑らかに接続し、人の営みが街路ににじみ出る空間には、生活と都市が重なり合う「響き」があった。

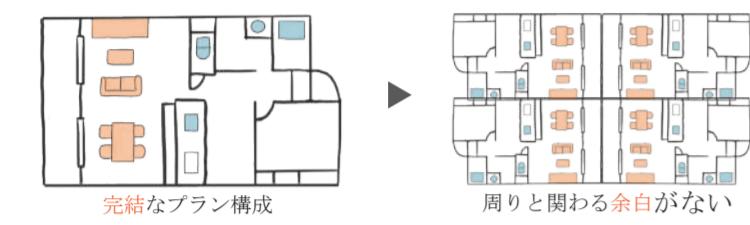


2 問題 - 分断された箱の中の暮らし -

現代の住宅は、都市の中に存在しながらも、都市との関係を断ち切られた「独立した箱」として成立している。



内部では機能が細分化され、個々の空間は完結的にデザインされているが、それらの部分が都市や社会と響き合う構造を失っている。



3 敷地 - 広島県東広島市西条 -

西条駅北口から徒歩3分の道路に囲まれた一角に位置する。周囲にはアパートが建ち並び、地域住民はこの敷地を避けるように迂回して通行している。そこで、この場所に人の通り抜けを許す「新しい道」を設け、周辺住民が自然と介入できるようにする。



外部の人が行き交うこと、住宅の内と外のあいだに緩やかな関係が生まれる。

4 提案

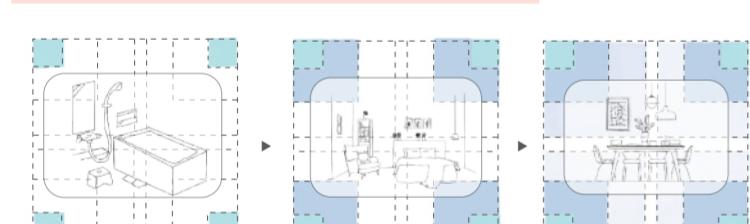
豪華さは、他者や自然との距離を自らの感覚で調整できる緩やかな関係を持つことではないだろうか。

住まい手は空間を固定されたものとして受け入れるのではなく、自ら編み直すことができる余地を持つ住居を手に入れる。

i. 外周から内側への領土拡張

建物の四隅には水回りを配置し、中心に向かって寝室、リビング、共用スペースが層のように展開する構成とする。

外周部ほど個的で機能的な空間が置かれ、中心に近づくほど他者との関わりが生まれる領域となる。この構成は、私的領域と公共的領域の重なりを選択的に調整できる仕組みをもたらす。

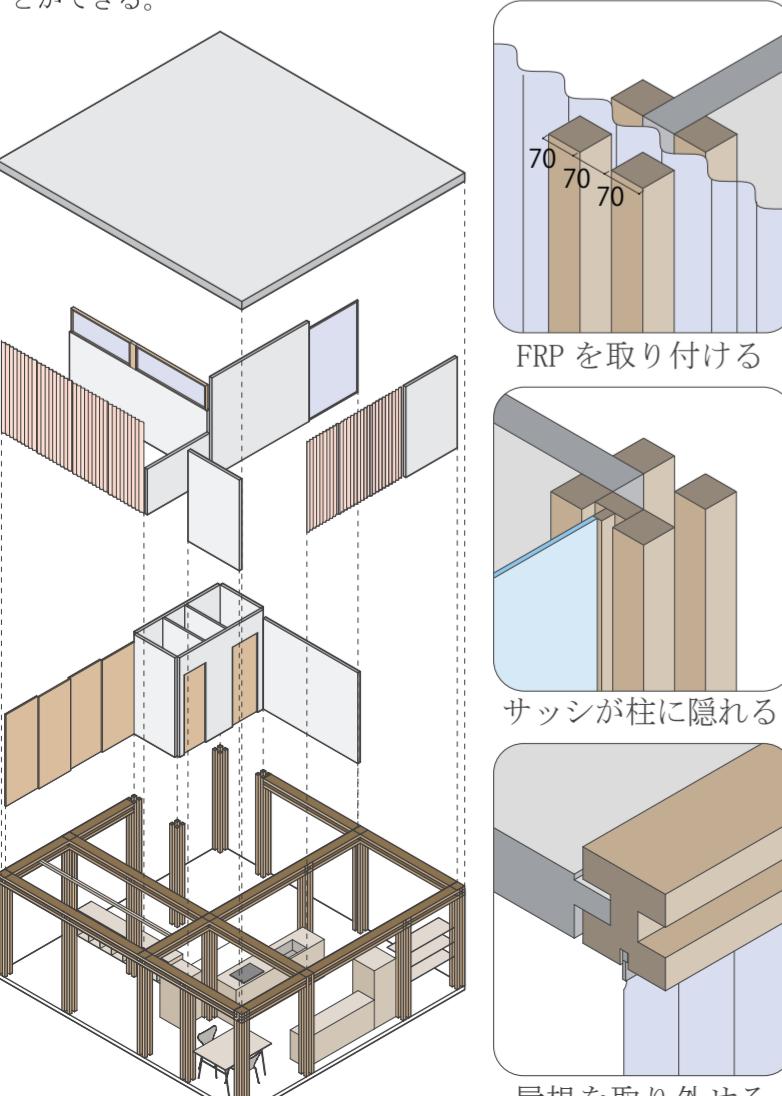


1. 水回りを四隅に配置 2. 必要居室を入れて部屋を占有する 3. 必要に応じて選択的に部屋を拡張する

住まい手はその日の気分や関係性に応じて、距離を近づけたり離したりできる。

ii. 建具の取替を選択的に行う

建物は4本の柱で1つのユニットを構成しており、居住者は柱を起点として、自由に建具を取り付けたり、屋根を張ったりすることができる。



都市を内包する住宅

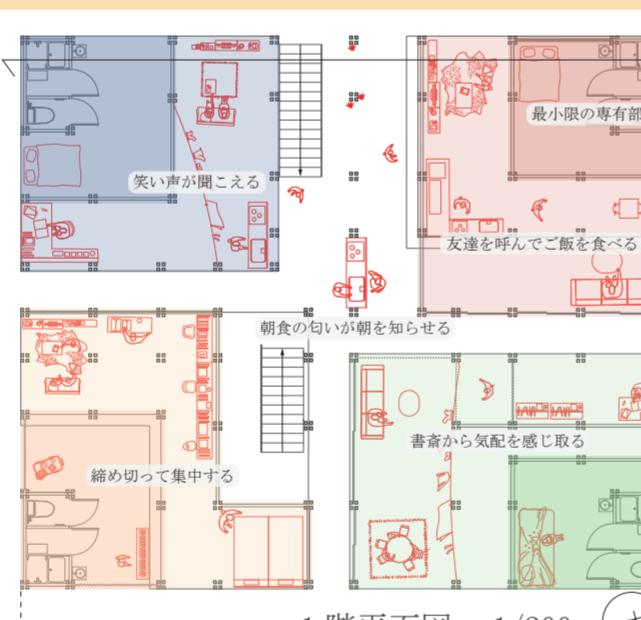
- フラクタルな関係性による選択的住まいの豊かさ -



隣人の気配を感じながら自分の時間を過ごす

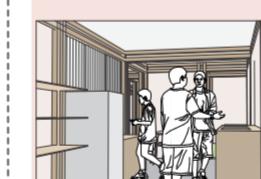
住人は自由に建具を移動できる

平面図 - 4住戸の場合 -

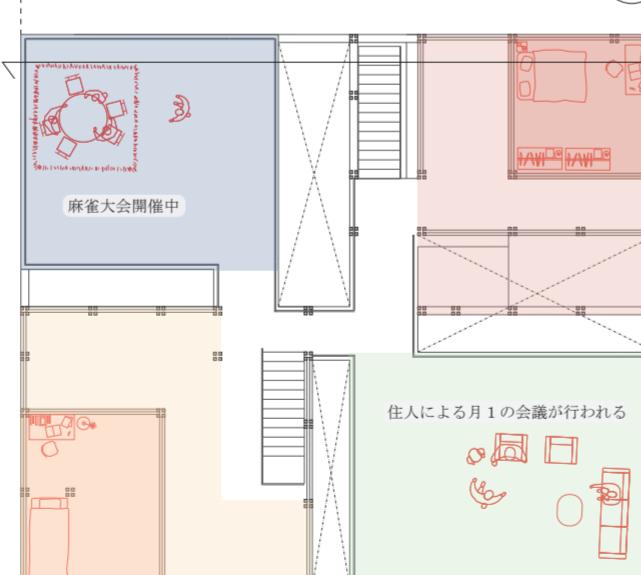


一人暮らし 大学生

専有面積を小さく抑え、寝室やリビングを最小限にし、その分、中央の共用スペースを広く確保できる。



1階平面図 s=1/200



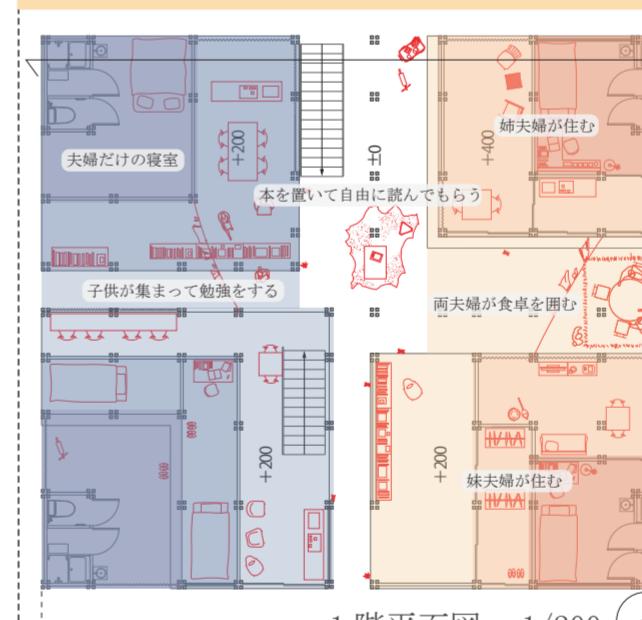
3人家族+犬

専有スペースが2つの敷地にまたがって配置されており、その間に共用スペースが介在している。



2階平面図 s=1/200

平面図 - 2住戸の場合 -



夫婦だけの寝室

本を置いて自由に読んでもらう

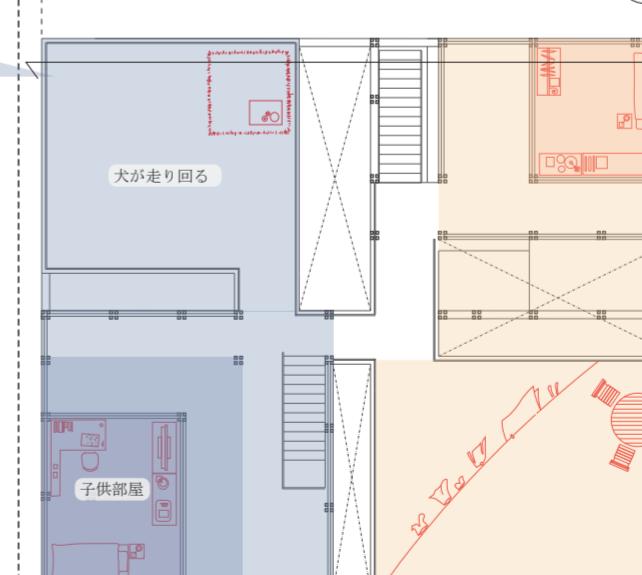
子供が集まって勉強をする

両夫婦が食卓を囲む

夫婦が食卓を囲む

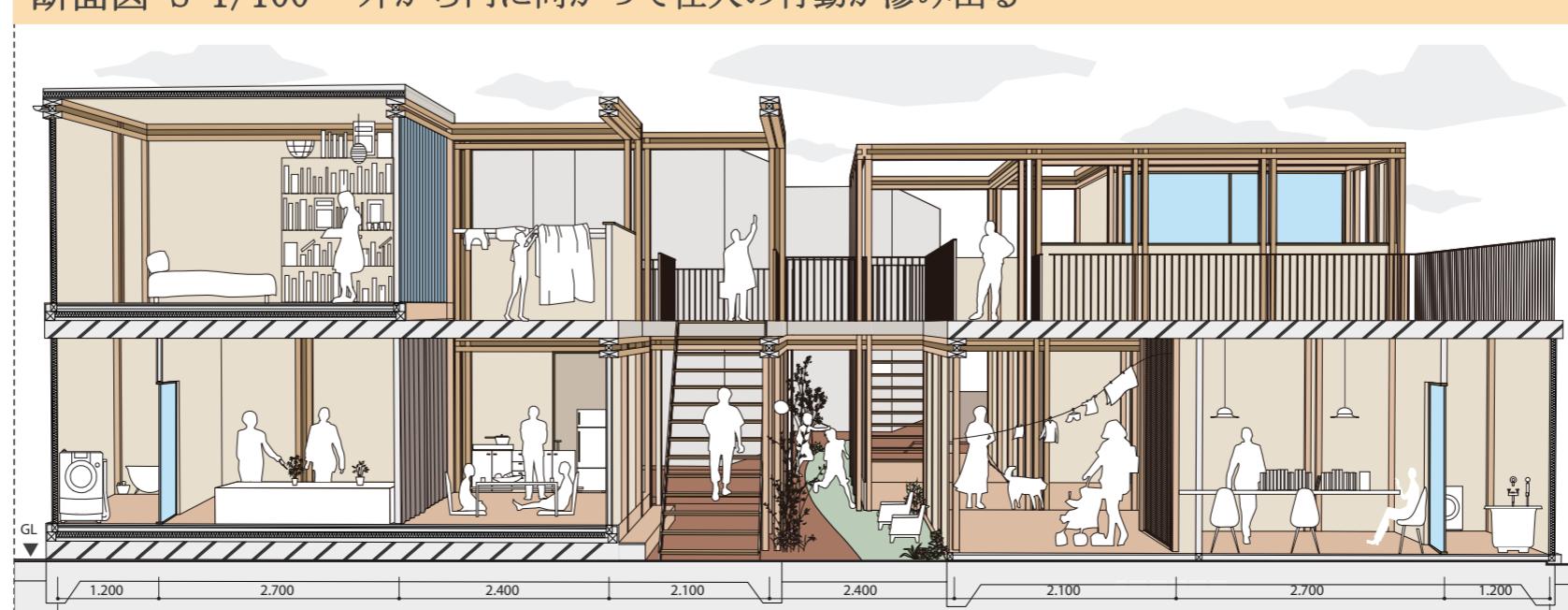
夫婦が食卓を囲む

1階平面図 s=1/200



2階平面図 s=1/200

断面図 S=1/100 - 外から内に向かって住人の行動が滲み出る -



5 建築家と住民同士の関わり

i. 建築家の介入



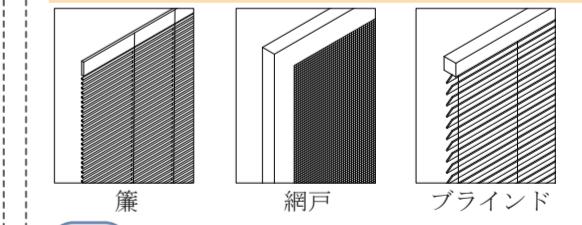
居住者決定後も主体的に建具の更新や、屋根の張替えを行う

ii. 住人の年間スケジュール

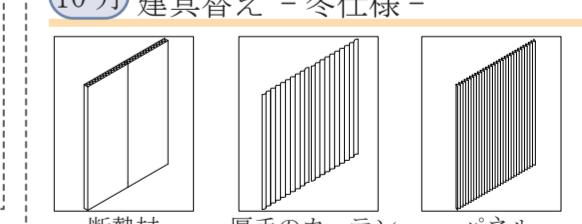
4月 専有部決め - 新年度顔合わせ -

居住者同士の話し合いの元、各専有部の区画を決定する

7月 建具替え - 夏仕様 -



10月 建具替え - 冬仕様 -



1月 大掃除 - 1年のふりかえり -

正月の大掃除で住人と顔を合わせる

iii. 住人の1日のスケジュール

